



各地の取り組みを  
ご紹介します

■ 岩手北部森林管理署

## 八幡平市との合同現場

### 勉強会を開催

#### 岩手北部森林管理署

去る1月16日(月)、八幡平市の松山国有林において、岩手北部森林管理署が主体となり、当署森林官と八幡平

市職員とで、松くい虫防除事業(樹幹注入)の合同現場勉強会を開催しました。

本防除事業は、南部アカマツの系統をくむ貴重な天然アカマツを、松くい虫による被害から保全するための予防措置として、平成28年度から数年かけて、保護林内のアカマツ全木に樹幹注入を行うものです。

今回、合同現場勉強会を実施した箇所は、「松森山御堂松植物群落保護林(面積:7.32ha)」に指定しており、岩手県の自然環境保全地域特別地区にも指定されています。また、南部アカマツの郷土種である「御堂松(みどうまつ)」の優良

#### 事業者から説明を受ける参加者

事業者から説明を受ける参加者

な種穂を確保するため、昭和48年に特別母樹林の指定も受けています。

この樹幹注入は、当署では初めての取組となることから、森林官を対象とした現場勉強会を企画し、日頃から連絡を取り合っている八幡平市農林課にも参加を呼びかけたところ、参加したいとの要望があり、合同の勉強会となったものです。

当日は、署の担当者から事業概要等について説明した後、請負業者から施工前準備、施工方法及び施工後の処理について説明があり、引き続き、参加者は請負業者から指導を受けながら、実際に樹幹注入を体験しました。

樹幹注入を行ったアカマツは、平均で胸高直径が50センチ以上もあり、1本について薬剤を10本程度打ち込まなければならず、穴を開ける場所の選定や薬剤の注入に時間がかかることなどについて体験できました。

参加者からは、「この時期に樹幹注入作業を行うのはなぜか。今回、使用するようになった薬剤を選択した理由は何か。」といった質問が出され、松くい虫防除への関心の高さと事業の重要性等に対する理解が深められました。



樹幹注入作業の様子

なお、松くい虫被害発生については、今のところ当署の国有林内では確認されていませんが、八幡平市の民有林においては、平成26年度に初めて確認されていることから、今後各市と連携を深め、被害拡大を食い止めていきたいと考えています。また、松くい虫被害の拡大防止のみならず、今後お互いの事業等を通じて、勉強会等を行っていきたく考えています。